

令和2年度 第2回伊豆の国市地域公共交通会議 議事録

次のとおり令和2年度第2回伊豆の国市地域公共交通会議を開催した。

- 第1 開催日時 令和3年1月13日(水)午後1時30分～午後3時20分
- 第2 開催会場 長岡庁舎3階第1・第2会議室
- 第3 出席した委員 小野 登志子(伊豆の国市長)
木口 典久(伊豆箱根バス三島営業所長)
青木 守(株式会社東海バス取締役修善寺営業所長)
立石 和達(千代田区長)
川口 昭一(浮橋区長)
村崎 弘(奈古谷区長)
今井 伸一(星の花号コミュタク委員会代表)
河合 勝也(シニアクラブ伊豆の国副会長)
佐藤 淳一(伊豆の国市PTA連絡協議会長)
山田 良生(伊豆箱根タクシー株式会社取締役)
五十嵐 正信(東海自動車労働組合書記長代理)
稲葉 一臣(大仁警察署交通課長)
桑原 靖宗(国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席専門官代理)
萩原 毅(静岡県交通基盤部都市局地域交通課長代理)
西島 功(伊豆の国市市長戦略部長)
佐藤 政志(伊豆の国市教育部長)
吉永 朋子(伊豆の国市福祉事務所長) 以上17人
- 第4 欠席した委員 寺山 冗二(株式会社寺山自動車取締役)
堀内 哲郎(一般社団法人静岡県バス協会専務理事) 以上2人
- 第5 事務局 塩谷 敏之(市長戦略部政策戦略課長)
遠藤 学(市長戦略部政策戦略課政策推進係長)
久保田 洋輔(市長戦略部政策戦略課副主幹)
杉山 由美(観光文化部観光課副参事兼観光企画係長) 以上4人

第6 会議次第

1 開会

事務局の塩谷から上記のとおり委員の出席があり、本会議が伊豆の国市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項に定めた「委員の過半数の出席」の成立要件を満たしているための報告があり、本会議の開会の宣言をした。

2 会長あいさつ

会長である小野伊豆の国市長から冒頭のあいさつをした。

3 議事録署名人の指名

事務局の塩谷から議事に入るあたり、伊豆の国市地域公共交通会議運営規程第3条第1項の規定より、会長が議長を務めることを報告した。

議長は、伊豆の国市地域公共交通会議運営規程第10条第1項の規定に基づき、伊豆箱根タクシー株式会社山田委員を本会議の議事録署名人に指名した。

4 議事

(1) 協議事項

協議第1号 令和3年度伊豆の国市自主運行バスの運行について

議長は、「令和3年度伊豆の国市自主運行バスの運行について」を協議第1号とする旨を宣言し、事務局に説明を求めた。

事務局の久保田から、配布した協議第1号「令和3年度伊豆の国市自主運行バスの運行について」説明をした。

その後、議長は、この協議事項について委員各位から質問や意見を受けたい旨を述べ、以下のとおり質疑応答が行われた。

[質疑応答等の要旨]

佐藤委員（伊豆の国市PTA連絡協議会長）から伊豆の国市自主運行バスの運行に係る経費額及び経費額に対する市の考え方について質疑があった。

事務局の久保田は、自主運行バスについては、補助金ベースではあるが平成30年度で約2,300万円、平成31年度で約2,600万円と年々増加している。市の財政を圧迫し続けているので、今後、減便や路線の統合、抜本的な見直しなど様々な想定をしつつ検討していきたいと回答した。

河合委員（シニアクラブ伊豆の国副会長）から、高齢者の移動支援に係る市の取組状況とシルバー人材センターとの連携の有無について質疑があった。

事務局の久保田は、移送ボランティアは2団体（千代田区及びいちごの里、葦山ぶなの森）が実施中であり、福祉部局（保健福祉・こども・子育て相談センター）では高齢者向けに移動支援セミナーを実施していると回答した。また、連携については、シルバー人材センターが運転ボランティア講習を実施していることは承知しており、今後は連携も検討していきたいと回答した。

木口委員（伊豆箱根バス三島営業所長）からは、コロナ禍の影響拡大により会社としての負担は増えているが、感染対策を講じたうえで今後も運行を継続していきたいとの意見があった。

青木委員（株式会社東海バス取締役修善寺営業所長）からは、コロナ禍により大変厳しい状況下である。しかし、交通弱者である高齢者や学生等の足の確保には一層努めていきたいとの意見があった。

立石委員（千代田区長）からは、地区住民のためぜひ現状維持でお願いしたいとの意見があった。

川口委員（浮橋区長）からは、今後は高齢者の免許返納などが増えてくるのではないかと。高齢者が出掛けやすい公共交通であっていただきたいとの意見があった。

議長は、協議第1号「令和3年度伊豆の国市自主運行バスの運行について」挙手による採決をすることを宣言した。

議長は、協議第1号「令和3年度伊豆の国市自主運行バスの運行について」承認の賛否を求めたところ、出席した委員全員の賛成があったため、原案どおり承認可決した。

協議第2号 単独継続困難の申し出系統についてについて

議長は、「単独継続困難の申し出系統について」を協議第2号とする旨を宣言し、事務局に説明を求めた。

事務局の久保田及び伊豆箱根バス岩崎氏から、配布した協議第2号「単独継続困難の申し出系統について」説明した。

その後、議長は、この協議事項について委員各位から質問や意見を受けたい旨を述べ、以下のとおり質疑応答が行われた。

[質疑応答等の要旨]

議長からは、アニメの効果期間はどれくらいあったのか質疑があった。

伊豆箱根バス岩崎氏は、概ね5年の効果があった。映画やアニメが放送されていた時期は若年層の利用が多かったが、映画やアニメの放映の終了とともに徐々に利用者が減り、今ではその効果が薄くなってしまった。利用者の回復のため、鉄道やタクシー等と連携して努力をしてきたいと回答した。

河合委員（シニアクラブ伊豆の国副会長）からは、長瀬地区では以前は東海バスも運行していた。当時は多く人の人が利用しており、通勤時間帯は座ることもできないほどであった。土地柄、中途半端な地域であり、交通手段がバスしかない。また、この路線は市内だけでなく近隣市町の住民も利用している。可能な限り継続していただきたいとの意見があった。

萩原委員（静岡県交通基盤部都市局地域交通課長代理）からは、この路線は静岡県東伊豆・中伊豆地域公共交通活性化協議会においてもシンボリックな路線であり、路線の継続の必要性は認識することが出来たとの意見があった。

議長は、協議第2号「単独継続困難の申し出系統について」挙手による採決をすることを宣言した。

議長は、協議第2号「単独継続困難の申し出系統について」、現時点で補助金の種別は問わず、補助金を活用してでも、生活路線として本路線を存続させる必要があるかどうか、賛否を求めたところ、出席した委員全員の賛成があったため「路線の存続が必要」と結論づけた。

協議第3号 観光周遊型韮山反射炉循環バスの運行内容の変更について

議長は、「観光周遊型韮山反射炉循環バスの運行内容の変更について」を協議第3号とする旨を宣言し、事務局に説明を求めた。

事務局の久保田及び観光課杉山から、配布した協議第3号「観光周遊型韮山反射炉循環バスの運行内容の変更について」説明をした。

その後、議長は、この協議事項について委員各位から質問や意見を受けたい旨を述べ、以下のとおり質疑応答が行われた。

[質疑応答等の要旨]

桑原委員（国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席専門官代理）から、実際の乗車人数や時刻表の変更の主な理由について質疑があった。

事務局の杉山は、令和2年度の乗車実績は現在のところ2,067人、昨年度比で29.8%に留まっており、コロナの影響で利用者の減少が著しい現状にある。時刻表の変更は、平成31年に利用の少ない15時台を9時台の時間に変更した経緯があるものの、今年度の実績として9時台は全体利用率でみると5%未満に留まっており、実情に適合しておらず、利便性の向上を図るために改めて変更するものであると回答した。

稲葉委員（大仁警察署交通課長）からは、利用者の利便性として鉄道駅への接続や待ち時間等の影響について質疑があった。

伊豆箱根バス岩崎氏は、鉄道のダイヤとの利便性は強く意識していない。伊豆箱根鉄道は概ね15分間隔で運行しており、お土産等を買う時間などを考慮すれば特に問題はないと考えているためである。また、第1便の減便は、東京圏からの観光客や伊豆長岡の宿泊者にとっても朝9時台の便は、少しせわしなかったためか乗る人が少なかった結果となったと回答した。

議長は、協議第3号「観光周遊型韮山反射炉循環バスの運行内容の変更について」挙手による採決をすることを宣言した。

議長は、協議第3号「観光周遊型韮山反射炉循環バスの運行内容の変更について」承認の賛否を求めたところ、出席した委員全員の賛成があったため、原案どおり承認可決した。

(2) 報告事項

ア 伊豆長岡周遊バス（IZU ベリーBUS）の書面決議結果について

イ 新型コロナウイルス交通事業者運行継続支援補助金の実施結果について

ウ バス停留所の安全性確保対策について

議長は、「報告事項」について、事務局に説明を求めた。

事務局の久保田、伊豆箱根バス岩崎氏及び桑原委員（国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席専門官代理）から、「報告事項」について説明をした。

その後、議長は、この報告事項について委員各位から質問や意見を受けたい旨を述べ、以下の通り意見交換が行われた。

[意見交換等の要旨]

西島委員（伊豆の国市市長戦略部長）からは、バス停の安全性確保対策は重要なことと認識している。危険は回避できた方が望ましいとは思いますが、今まで地域住民が利用してきたバス停でもある。設置場所の変更については慎重に協議していかなくてはならないとの意見があった。

佐藤委員（伊豆の国市教育部長）からは、バス停の安全性確保対策について子供の安全のため、特に登下校時には日頃より指導はしている。安心して乗降できるような対策を講じていきたいとの意見があった。

吉永委員（伊豆の国市福祉事務所長）からは、高齢者の移動支援について市で交付しているタクシー券等では賄いきれない部分がある。今後は運転ボランティアなどの支援にも力を入れていきたい。先日、ベリーバスと遭遇した。いちご柄のとてもかわいらしいバスだと感じた。実証実験の結果を考慮して今後につなげていただきたいとの意見があった。

五十嵐委員（東海自動車労働組合書記長代理）からは、バス停の安全確保について、自身が元運転手であり、危ない停留所で乗降した経験は多くある。1つでも危険なバス停が減るように期待している。コロナ感染者が増大しており、いずれの職場の中でも感染者が出てもおかしくない。誹謗中傷のない社会にご理解ご協力をお願いしたいとの意見があった。

佐藤委員（伊豆の国市PTA連絡協議会長）からは、子どもが菰山南小学校に通っており朝は集団登校している。保護者にも指導をして、引き続き、安全で安心な通学ができるように努めていきたいとの意見があった。

今井委員（星の花号コミュタク委員会代表）からは、星の花号の実績は、継続運行の基準に達していないが引き続きご支援いただけるとのことで感謝している。時刻の変更については長い期間の統計を考慮して決めていかなくてはならないとの意見があった。

村崎委員（奈古谷区長）からは、ベリーバスや歴バスのる～らの利用者増加に向けて検討の余地があると思っている。また、歴バスのる～らとベリーバスはいずれ統合し、範囲を広げて運行することができるのではないかとの意見があった。

川口委員（浮橋区長）からは、ベリーバスは大勢の観光客が乗車し観光していただきたい。コロナ禍において、積極的な誘客が全て正しいことは分からないが、今から対策をしっかりとって落ち着いたらしっかりと宣伝していただきたいとの意見があった。

立石委員（千代田区長）からは、危険なバス停の一覧を見るとそのほとんどが交差点に近いところである。見通しが良い直線道路の方に移したらどうかとの意見があった。

山田委員（伊豆箱根タクシー株式会社取締役）からは、地方創生交付金を活用した補助金をいただき感謝している。コロナ禍により5割から6割程度の需要であり大変厳しい状況に変わりない。稼働を調整して台数を確保しているところであり、今後も感染拡大防止に努めながら取り組んでいく予定であるとの意見があった。

青木委員（株式会社東海バス取締役修善寺営業所長）からは、運行継続補助金について感謝している。昨年12月からの感染拡大により再び打撃を受けているため、今後も継続したご支援をお願いしたい。危険なバス停について、時代とともにバス停の環境も変わってきている。優先順位をつけながら改善していきたいとの意見があった。

木口委員（伊豆箱根バス三島営業所長）からは、ベリーバスについてスタートしたばかりではあるが、コロナ禍で厳しい状況ではある。今後の伊豆の国市の観光増進策として重要な位置づけであることからご理解いただきながら育てていただきたい。バス停の安全確保について、優先度を決めてできることからやっていきたいとの意見があった。

萩原委員（静岡県交通基盤部都市局地域交通課長代理）からは、ベリーバスについて首都圏からの誘客が止まってしまったことは非常に残念である。伊豆の国市は鉄道駅への接続や交通空白地域の解消についても積極的に取り組んでいるため、引き続きお願いしたいとの意見があった。

桑原委員（国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席専門官代理）からは、単独継続困難の申し出系統について、条件等はあるものの国の補助金等支援

を活用していただければと思う。コロナ対策関連の支援メニューも国の予算が可決される見込みであり、今後広く情報提供していくとの意見があった。

河合委員（シニアクラブ伊豆の国副会長）からは、いずれベリーバスやのる～らの統合について検討の余地がある。予約型乗合タクシーについての乗合状況割合を確認したが、市の補助金による補填がなされている。乗車運賃の見直しなどにより市の負担を減らしたらどうか。また、乗り方等を検討したらどうかとの意見があった。

議長は、各委員に会議の円滑な進行に対してのお礼と今後の当市の公共交通についての協力をお願いした。

議長は、以上をもって本日の議事の全てを終了した旨を述べ、会議の進行を事務局に戻した。

5 閉会

事務局の塩谷は、本日の会議の全てを終了した旨を述べ、午後3時20分に令和2年度第2回伊豆の国市地域公共交通会議の閉会を宣言した。

以上の決議等を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び本会議の議事録署名人がこれに署名する。

令和3年1月21日

令和2年度 第2回 伊豆の国市地域公共交通会議

議事録作成者

議長・会長 伊豆の国市長

小野登志子

議事録署名人 伊豆箱根タクシー

山田良生